

悲願だった自家工場が山梨で稼働し始めました。納得のいくものづくりを求めて。一段ステップアップです。

お一人お一人の客様のご要望に合わせて一枚一枚作るという業界の非常識に挑み四年。これまでは注文を頂いても生産限界が売上限界という状況でした。これからは生産量も増え、今まで一年中カシミヤの備蓄生産に追われ秋冬の一毛作だったのが、春夏物が展開出来てやっと二毛作になりました。世界一の島精機の最新鋭のコンピュータ制御の編み機です。これでぐっとデザインの中が広がり、インターシャを始め面白い編地や柄をご披露できると思います。業界では今どきの生産は安いアジアが常識ですが、納得の行く最高の物作りにはやはり自社での物作りと思っています。来年5月には新しいラインアップで展示会を開催する予定です。

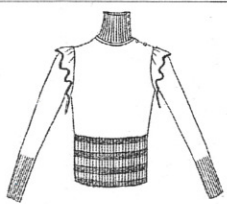
山梨工場は佐野が工場長として奮闘し、青山本社には児玉が新しく加わりました。どうぞ宜しくご指導をお願いします。

### 【一週間程度、現物貸し出し】

色付きが遅かった今年の紅葉もアツという間に落ちてカシミヤが実力を発揮する時期になりました。この時期になるとやはりすぐ着用できる現物に目が行きますね。UTOは受注主体と言ってもある程度は現物もあります。そんなに枚数は多くはありませんので貸し出しは一週間程度にさせていただきます。申し込み順ですのでお早めにご連絡ください。

### 【バラの花と富士山が見えます】

我が家の狭い、日当たりの悪いベランダで鉢植えのバラが咲いてくれています。四季咲きです。今年の春は三輪咲きましたが今一輪、寒さに震えながら咲いていて、寒い為かもうひと月近くも咲いていかに冬壮美です。このバラの後方にきれいな富士山が望めます。



### 肩フリルセーター

No. 1271 ¥48,000.-

両肩のフリルが何よりのポイントで、端の配色と長めの裾リブのボーダーでより美しさをプラス。襟のタートルもボタンを開けばサイド開きの襟に変身



### 縦袖配色ニットセーター

No. 1517 ¥55,000.-

ロール襟の台襟に美しい縦縞の配色を入れました。超贅沢な分厚い7ゲージの。フォークロアとアールン混合のカジュアルな広い用途に楽しめます。



### ミンク梵天つきマフラー

No. 1903 ¥12,000.-

カシミヤならではの優しい肌触りのふんわりカシミヤに可愛いミンクのポンポリが6個。結び方次第で色々な楽しめます。これ一本でコートの襟元の演出は決まり。



ススキ

同じ富士が山梨の工場からも見え、引越した事務所からも富士の裾が見え、なんとなく嬉しくなります。こんなことで嬉しくなるのは日本人だからですかね。

【忙中暇話】  
ニット屋のたわごと  
本日の特選素材を食べたい

### 『今夜のご注文はどっち』

素材や原料などは『一見普通のものと思分けがつかないものでも、実は』というような、事前に知識が無かったらその価値や良さがなかなか分からないことは多いですね。UTOのニット作りにも、こんなところから、ここにこだわってものづくりをしているんだから、ここを知ってほしいということが多くあります。その実はというようにこだわりの知ってもらうことに対して多くのヒントを得られるTVの番組があります。三宅裕司と関口宏の司会で日本テレビ系でやっている『どっちの料理ショー』です。

番組では経験豊かな2人の料理人が腕によりを掛けて仕込から料理を作ります。要所要所でプロならではの腕前を披露し、出来上がった2つの料理に対してゲストの支持の多かったほうが勝ちで勝ったほうが食べられ負けした方は指をくわえて見ているという他愛のない番組ですが、面白くてつい見ているし、面白いです。この番組の一番のポイントが『本日の特選素材』です。

料理は調理して出されたら材料の中身はほとんどわかりません。どんなに貴重な食材であっても、

こだわって作ったとか、探ってきたとか、育てたかはわからない、いわゆる『有難み』が、わからないです。その有難みを誰もが解る様に教えてくれるのが『本日の特選素材』なんです。

特選素材の提供者はほとんど他薦というのみで、よくあるのがその素材を扱っている一流のお店の人に聞くケースです。こんな料理を作るのに一番の材料はどれですか？それなら誰々さんが一番とか何処どこで作っているとか、特にその道のプロ達が認める人の推薦がポイント。へそ曲がりの僕としては、この推薦は多分演出だと僕はいらんでいるんですが。

生活をかけて、人生をかけて素材作りや厳しい自然からの獲物を獲るために日々努力し仕事に打ち込んでいる姿は尊く結構感動します。そんな普段は目にする機会が無い感動のドラマを見せられた上で、スタジオに並んだ本日の特選素材のカバーをばつと取ると『うわー』とため息とも驚きともつかない声の沸きあがります。

目で味が判るはずがないのに思わず喚声が出るほど説得力のあるVTRです。そんな素材を使ってるんだつたら是非食べてみたい！と誰もが思うでしょう。

もしこのVTRが無く料理人の腕だけでそんなに違いがわかるはずがありません。特選素材を知ることで美味しさが倍増。自分はVTRにあつたあれを食べるといふ喜びが沸き起こります。

知ること、関心や、興味を持つ。興味を持つことにより深く知り、知ること喜びが増す。今の成熟社会で『関心ある人』にいかにか喜んでもらうか『の大事な要素』としては『如何に知ってもらったために努力するか』が重要なんです。

そのために『ニットの話』を書いてUTOのニットやカシミヤは、如何に優れた原料とテクニクが盛り込まれているかを知って、もらいたい、そして喜んでほしいと思っただけ、この番組のVTRの10分の1の伝える力もないのがもどかしいものです。



\* ニットの話 \* (十七)

日本のニット作りの現状

日本で販売されるセーターのほとんどが輸入というのを存知ですか？その大部分が中国からです。

ニット業界では1980年代後半から輸入が急激に増え始めました。その頃の輸入品はまだ素材のバリエーションも少なく品質もあまりよくなく如何にも粗悪品という製品も多くありました。

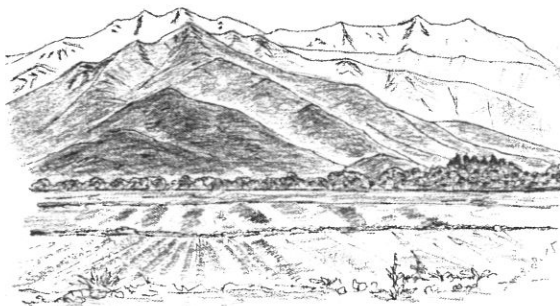
その結果、少品種多ロットは海外で、多品種少ロットは国内でという構図になってしまいました。

少品種多ロットという効率のいい飯の種を奪われた国内の工場は縮小と大リストラ、特に経験が長く給料の高い人たちが対象になってしまったようです。

製品という完成品の輸入に伴って、製造に関わる糸商さん、染屋さん、ボタン等の資材屋さん達も当然縮小になり益々業界は縮小スパイラルです。

今、業界は生き残る為に皆必死。日本の経済発展と共に発展しそれに伴っていた勢力図や設備などの遺産も、成長の鈍化とともに大きな設備をもつ工場ほど苦しいという負の遺産に変わってしまったようです。

それまでアパレルメーカーだけと取引していた工場もアパレルからの反発を覚悟の上でお店にセールスをかける所も出てきました。アパレルの方が先に海外生産にシフトして注文が激減しているから文句を言えた義理でもないですね。大量に注文を出してくれそうな大型小売りのチェーン店やスーパー、百貨店などへアプローチをかけるのは当然の流れでしょう。一方小売店のほうもクリエイティブな商品は専門のアパレルへ、平場の商品は工場へとアパレルへの依存度を減らして使い分けを



そこそこの商品を大量に

しているようです。工場には生き残る為に頑張っただけでほしいと思いが、大いに気になることがあります。物作りでの工場に対する要求では、専門知識や経験の豊富なニットアパレルは他社との差別化の為にかなり細かく高度な物づくりを求めます。

それに対して、チェーン店やスーパー、百貨店はどちらからかという安く早くという要求が先行するようです。両方の要求に同時に対応していくには難しく結局注文の多いほうに顔が向くようですし、どうせアパレルの難しい要求をこなしていても結局あんまり注文も来ないんだからと諦められているのかもしれない。

多くの従業員と設備を持つ工場は大きなロットの仕事はこなしていかないと存続が難しいことはよく理解できます。しかし大きなロットの製品ほど一枚あたりの値段はほとんど安価になっていきますその分野での競争相手は中国などの海外メーカーです。

U.T.O.としてはグレードの高い物作りが命ですので、高度な物作りをお願いすると、あたかも無体な言っているが、理解しにくいという場合もあり、ビックリするといふか呆れるというか、これでは先が思いやられると言つより話にならないことも多々ありました。

カシミヤは素材のひとつですがクオリティとしては最高の素材です。最高の物作りをするのが当然ですね。それには丁寧な作りと高度な技術と熟練が求められます。

これはあくまでも私の感想ですが、物作り優先の工場が本当に少なくなりました。というよりも作り優先では生きていけないのでしょうか？アパレルが、小売店が、消費者がいい物作りを要求していませんでしょうか？

かくなる上は自分達で作るしか方法がないでしょう。なにせU.T.O.は最高の物作りをお願いしながら一枚一枚という、工場からは塩を撒かれるような要望なんですから。

世の中話・ニット屋のたわごと

世界のホテルを旅する (十七)

チャットマン ホテル

西アフリカのナイジェリアはサツカリーのワールドカップで活躍したことで名前を聞くようになりまして、一般にはあまり馴染みのない国だと思えます。



ケニヤの首都ナイロビから飛行機は一面緑の海の上を飛んで直行して約七時間。アフリカを横切るのにこんなに時間が掛かってしまう。アフリカの大きさを実感します。

当時二十五歳、たった一人で飛んできて降り立った西アフリカのラグスは夜八時を過ぎていました。豪雨が上がった直後で管利用の車がポット浮かんでいます。降り立った足元からムツとする熱気が上がってきました。タラップの下には何人かの若者が待ち構えていて乗客の荷物を受け取って入国手続きに案内しています。

こんな所で荷物を運んでくれるのは観光局か税関などのウエルクムサービスかと思いつきながら入国の係官のところへ連れていってもらいます。パスポートチェックは入国の役人が三十センチも高い台から見下ろして威厳高くチェックします。案内している若者が二十ドルをパスポートに挟みとあらかさまに賭略を指示し、役人は当然のようにポケットに入れ判を押すと投げやります。

税関でも同じように無礼極まる態度で賭略を要求し、拒否した人の荷物を根こそぎひっくり返して調べています。下着一枚一枚まで調べられて泣いている女性もいます。アアア、途上国ほど役人が威張っているのは経験済み、でもここはあまりにも非常識です。

入国手続きを終えほっとしてターミナルビルへ、一刻も早くホテルへ行ってシャワーを浴びたいと思いつつ荷物運んでくれている若者にタクシー乗り場を聞くと「こっち」と荷物を持ってドンドン進みます。オット、荷物を持っていかれたら大変と後を追います。ターミナルビルを横から出てすぐです、『暗いシケたところ』にタクシ乗り場があるんだなあ』と思いつつ、暗がりに目が慣れて気がついてひよっと横を向くとナタみたいな刃刀とピストルを持った男、五、六人に囲まれているんです。

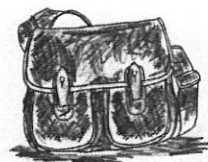
現金だけを抜き取りポケットに入れると財布とパスポート、チケットを二方の暗がりに投げたんです。同時に全員がサツと逃げ出しました。

『助かった』と緊張が解けた途端にひざがガクガクします。力が抜けて立っていません。『こんな暗がりでぐずぐずしていたら、またなにが起きるか解からない、早くバスポートやトラベラーズチェックを、チケットを財布に、人を呼ぶ、いやそれより安全な明るいうへへ』頭のてんぱニック、でも拾い上げたパスポートが雨上がりなのに濡れていなかったことを私に覚えていてくれます。

重い荷物を引き摺って、明るいターミナルの正面に辿り着いたときは、警察や日本大使館より、早くホテルで横になりたい一心です。でなかつたらこのままここに倒れ込みたいくらいふらふら状態です。

ホテルへ向かう四人の相乗りのナイジェリア人は体格が大きいんです。まんじりともせず暗闇を見ているとまた凄いい雨です。三人が降りて最後に私のホテルに着きました。タクシーにはかなり吹っつけられた感じがしますが運転手と争う気力はありません。

ナイロビで予約して辿り着いたチップトップホテルは板を置いただけのカウンターの前に裸電球が一つだけぶら下がっているひどいホテルです。あんな強盗に遭った後がこのホテル。その上予約が入っていないと言う。ガクガクというよりへたり込みたいくらいに力が抜けます。こんな状態で他のホテルを捜す気力など残っていません。



三十年も前のことですが、今思い出しても本当に嫌な出来事です。でもよく無事だった。正面にいた男の顔は思い出されません。この頃はナイジェリアと聞いてもあまりこのことを思い出さなくなりました。でも、この文を書きながら当時のことを思い出さなければいけない時の感覚が手に汗がにじみ疲れないホテルチップトップは今まで一番悪悪だったホテルに違いない。